



博多港・福岡空港の概況

令和8年3月
福岡市港湾空港局

= 目次 =

第1章 博多港の物流

- 1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） …… P.1
 - (1) 国際海上コンテナ取扱個数の推移
 - (2) 令和7年の取扱個数増減の主な要因
 - (3) 貨物の内訳
 - 【参考：国内主要港との比較（令和6年）】
- 2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地 …… P.4
- 3. 海上出入貨物（トンベース） …… P.5
 - (1) 海上出入貨物量の推移
 - (2) 令和7年の貨物量増減の主な要因
 - (3) 外国貿易
 - (4) 内国貿易

第2章 博多港の人流

- 1. 船舶乗降人員 …… P.9
 - (1) 船舶乗降人員の推移
- 2. クルーズ船の寄港状況 …… P.10
 - (1) 寄港回数の推移
 - (2) 船舶乗降人員の推移

第3章 博多港の入港船舶

- 1. 入港隻数及び総トン数 …… P.11
 - (1) 入港隻数及び総トン数の推移

第4章 福岡空港の概況

- 1. 乗降客数 …… P.13
 - (1) 乗降客数の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】
- 2. 貨物取扱量 …… P.14
 - (1) 貨物取扱量の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】
- 3. 発着回数 …… P.15
 - (1) 発着回数の推移
 - 【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】
- 4. 路線状況 …… P.16

※いずれの表・グラフとも端数処理のため合計が合わない場合がある

第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数 (TEU ベース)

【令和7年港湾統計速報値】

取扱個数：約90万7千TEU

外貿ダイレクト：約85万TEU、内貿フィーダー：約5万7千TEU

(1) 国際海上コンテナ取扱個数の推移

令和7年の国際海上コンテナ取扱個数は、輸移出入ともに増加している。

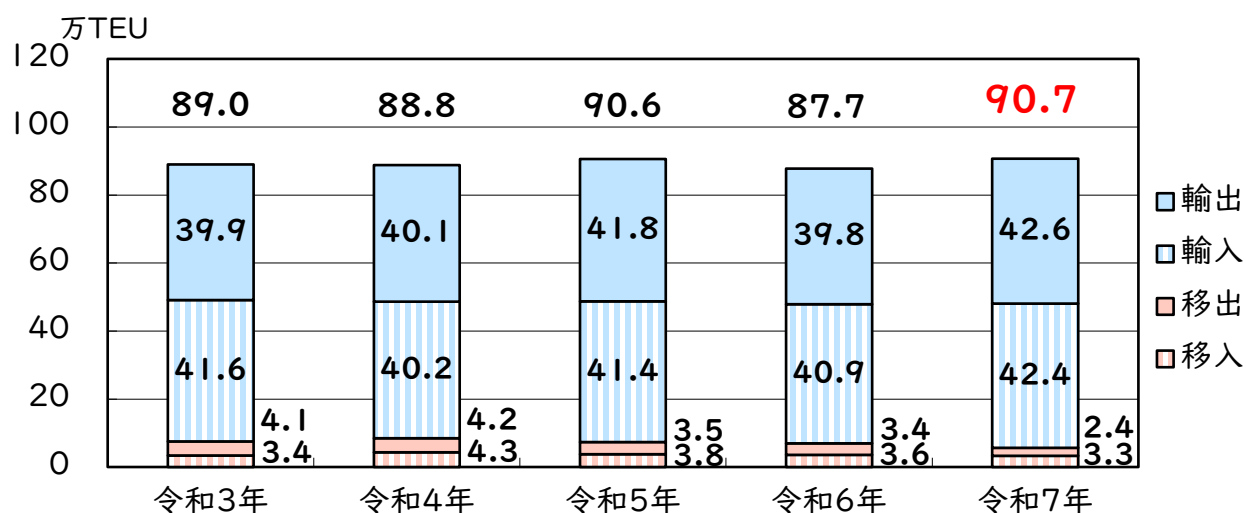
【表1-1】

(単位:TEU)

区 分	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年		
					数量	増減(R7/R6)	前年比
博多港全体	890,026	887,734	905,678	877,382	906,665	29,283	103.3%
輸移出	439,944	442,862	453,563	432,682	450,007	17,326	104.0%
輸移入	450,082	444,872	452,115	444,700	456,658	11,957	102.7%
うち外貿ダイレクト	814,998	802,378	832,091	807,205	849,858	42,653	105.3%
輸出	398,554	400,796	418,187	398,425	426,233	27,809	107.0%
輸入	416,444	401,582	413,904	408,780	423,625	14,844	103.6%
うち内貿フィーダー	75,028	85,356	73,587	70,177	56,807	▲13,370	80.9%
移出	41,390	42,066	35,376	34,257	23,774	▲10,483	69.4%
移入	33,638	43,290	38,211	35,920	33,033	▲2,887	92.0%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20フィートコンテナ換算個数

【グラフ1-1】



(2) 令和7年の取扱個数増減の主な要因

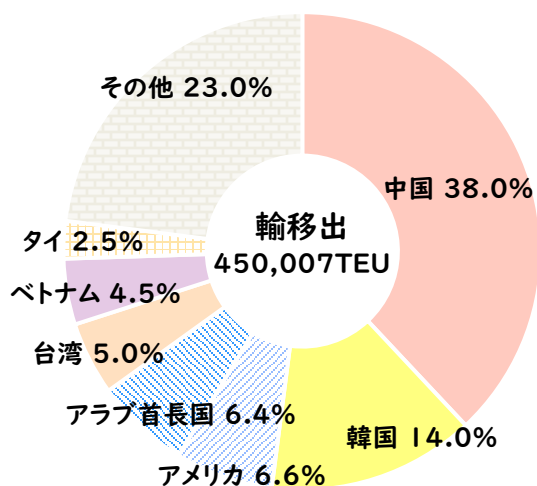
輸移出…二輪自動車(前年比+3,644TEU)や水産品(同+2,904TEU)の増加等
 輸移入…電気機械(同+2,341TEU)や野菜・果物(同+1,961TEU)の増加等

(3) 貨物の内訳

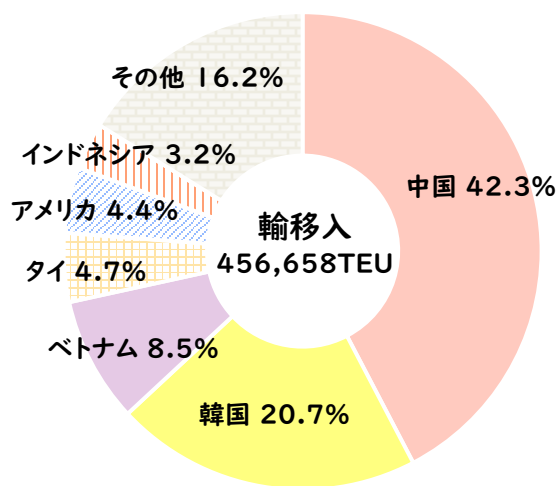
①相手国別

輸移出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ1-2】



【グラフ1-3】



②主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「完成自動車(中古車)」や「ゴム製品(タイヤ等)」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸移入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの(衣類関係)」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表1-2】

(単位:TEU)

輸移出					
順位	品種	取扱個数	主な輸出相手国		
1	完成自動車	※ 47,310	アラブ首長国	南アフリカ	チリ
2	ゴム製品	38,512	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア
3	自動車部品	18,276	アラブ首長国	アメリカ	マレーシア
4	再利用資材	17,116	ベトナム	台湾	韓国
5	産業機械	16,668	中国	台湾	アメリカ
6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	14,390	中国	韓国	台湾
7	二輪自動車	12,661	イタリア	アメリカ	フランス
8	飲料	12,036	韓国	台湾	中国
9	取合せ品	11,217	アメリカ	韓国	中国
10	製造食品	7,751	中国(ホンコン)	台湾	中国

※ 普通・小型乗用車約 95,000 台分に相当

【表1-3】

(単位:TEU)

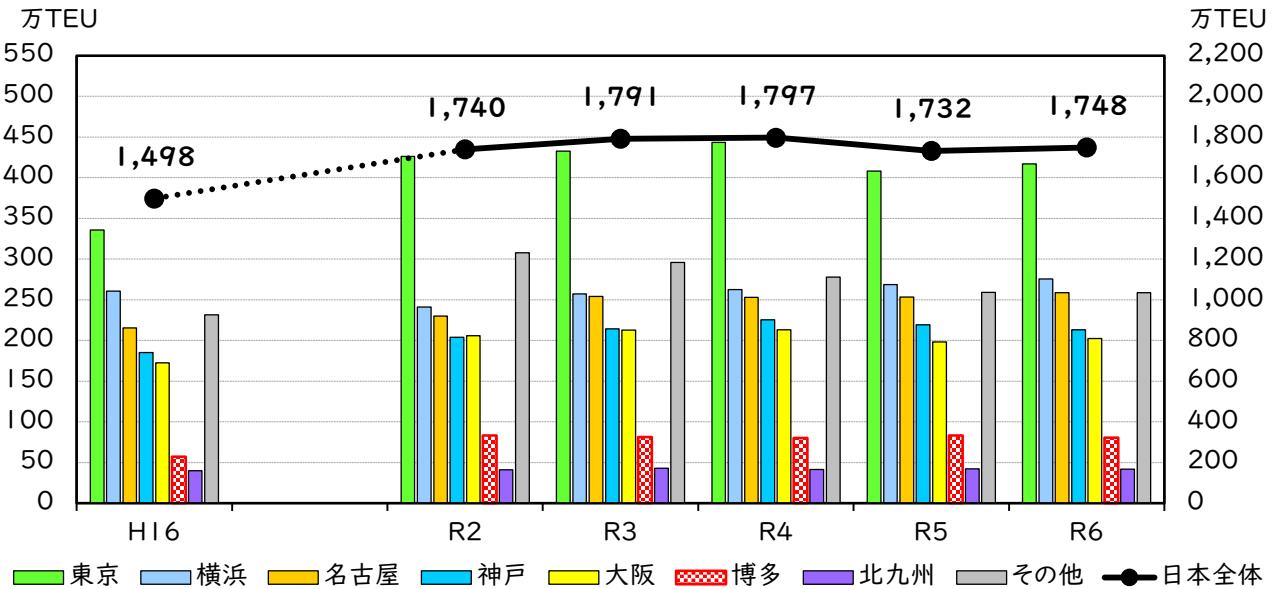
輸移入					
順位	品種	取扱個数	主な輸入相手国		
1	家具装備品	46,429	中国	ベトナム	マレーシア
2	衣服・身廻品・はきもの	31,876	中国	ベトナム	韓国
3	電気機械	29,089	中国	タイ	ベトナム
4	動植物性製造飼肥料	28,649	韓国	アメリカ	オーストラリア
5	製造食品	27,137	中国	韓国	タイ
6	自動車部品	26,175	ベトナム	中国	韓国
7	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	17,534	中国	韓国	タイ
8	金属製品	16,261	中国	ベトナム	韓国
9	その他日用品	15,866	中国	韓国	インドネシア
10	野菜・果物	15,024	中国	韓国	ベトナム

【参考：国内主要港との比較（令和6年）】 国土交通省「港湾統計（年報）」より

① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ1-4】



令和6年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、神戸、大阪、博多、北九州となっている。

年	R2	R3	R4	R5	R6
博多港のシェア	4.8%	4.5%	4.5%	4.8%	4.6%

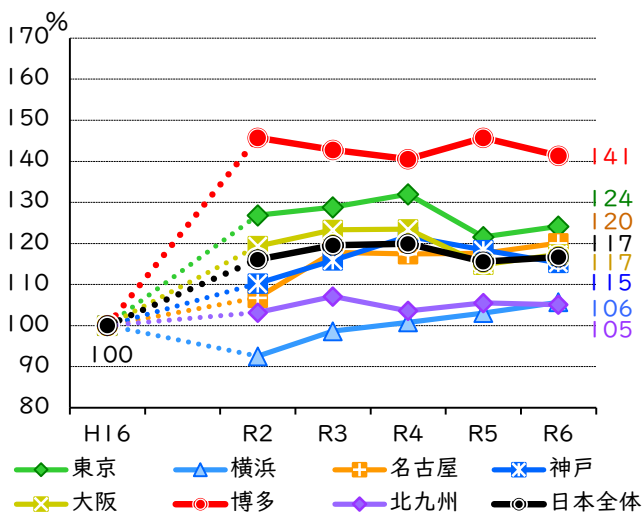
② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

博多港の取扱いは日本全体や国内主要港よりも高い増加率で推移している。

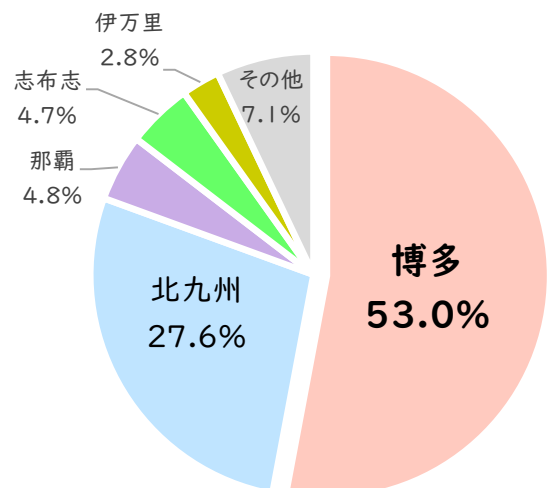
③ 九州域内の取扱シェア

九州域内で取り扱われている外貿コンテナ貨物の約5割が博多港を利用している。

【グラフ1-5】



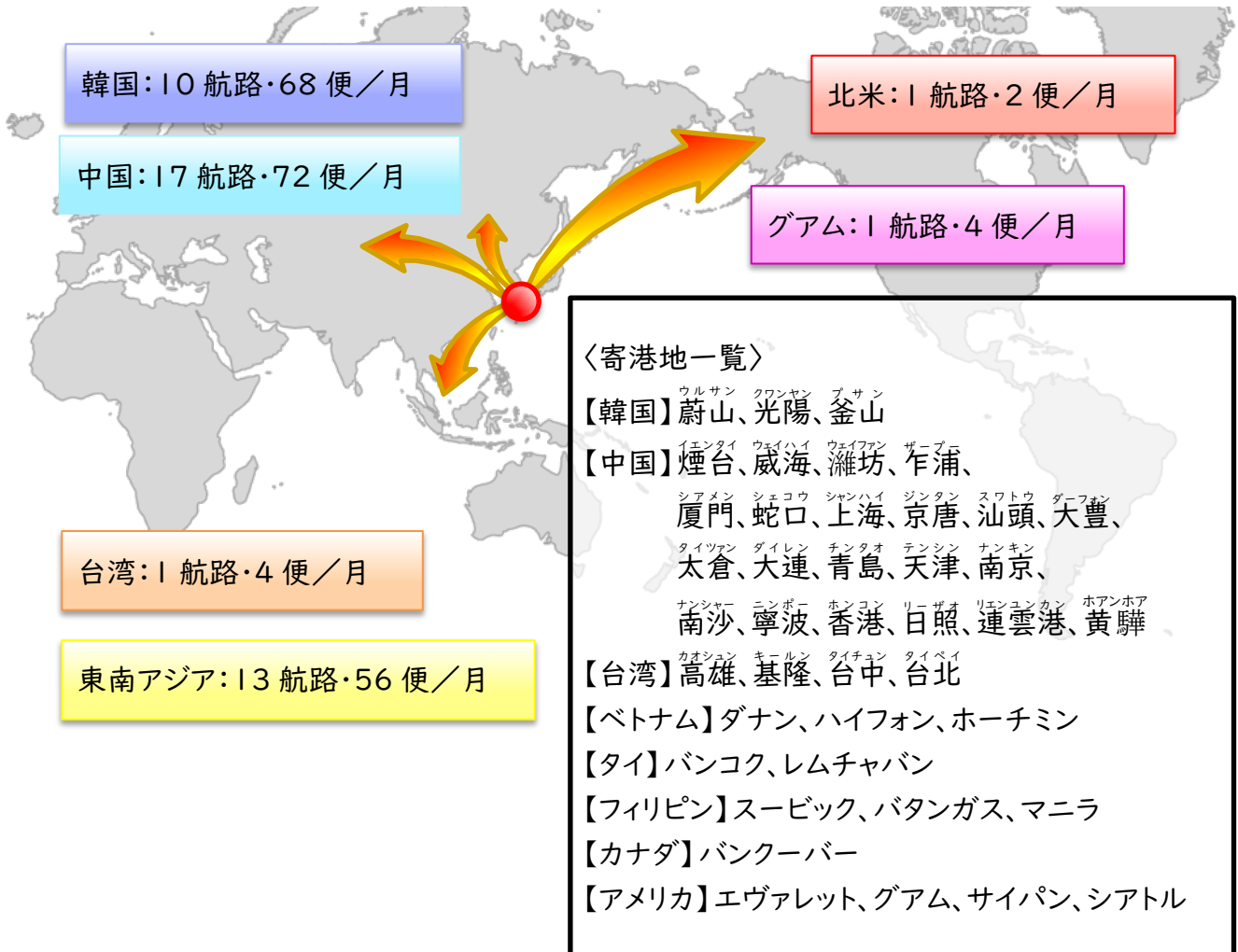
【グラフ1-6】



2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

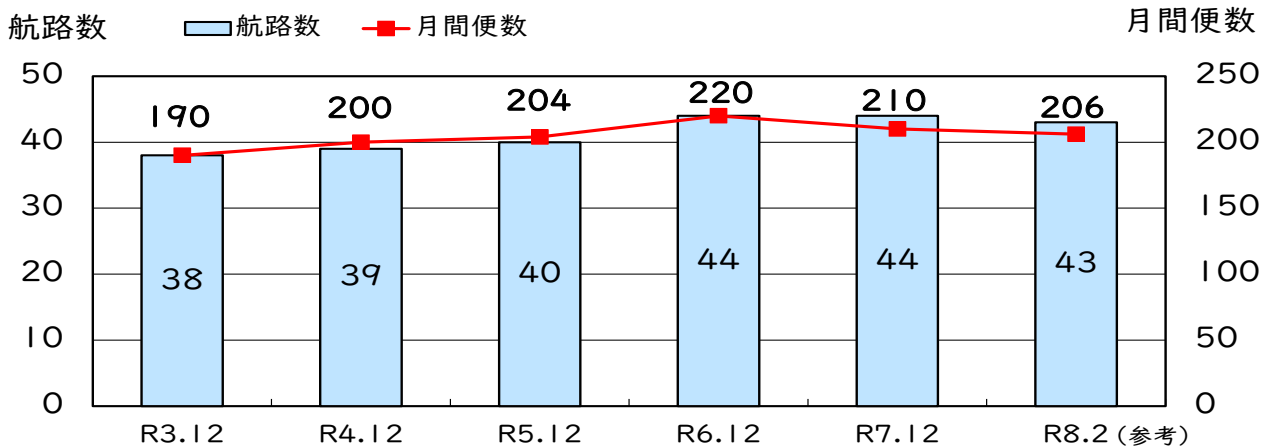
43航路・月間 206便 (8カ国・地域、41港とのコンテナ物流網を形成)

(令和8年2月1日現在)



■国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和7年港湾統計速報値】

貨物量：約 3,244 万トン

外国貿易：約 1,878 万トン、内国貿易：約 1,366 万トン

(1) 海上出入貨物量の推移

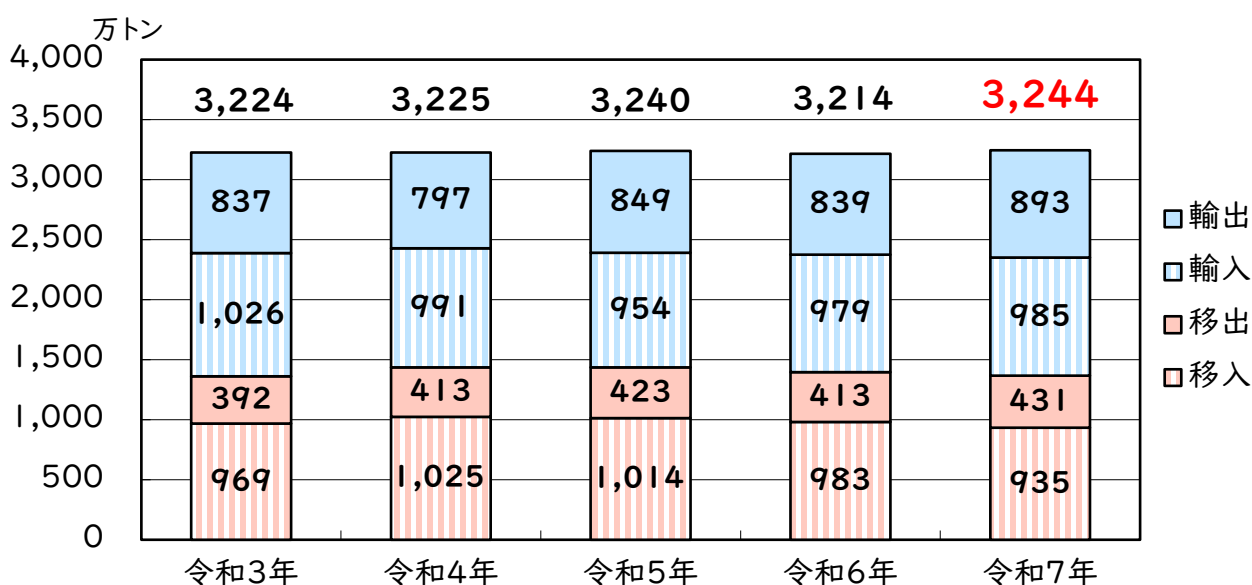
近年は 3,000 万トン台前半で推移しているが、令和7年は、輸移出は前年より増加、輸移入は前年より減少しており、全体では令和6年より増加している。

【表 3-1】

(単位:トン)

区 分	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	増減(R7/R6)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	32,242,372	32,253,371	32,398,177	32,137,053	32,440,648	303,595	100.9%
輸移出	12,291,901	12,096,797	12,718,039	12,526,323	13,243,031	716,708	105.7%
輸移入	19,950,471	20,156,574	19,680,138	19,610,730	19,197,617	▲ 413,113	97.9%
うち外国貿易	18,625,360	17,880,503	18,031,190	18,180,459	18,776,501	596,042	103.3%
輸出	8,368,395	7,970,800	8,489,366	8,394,844	8,930,669	535,825	106.4%
輸入	10,256,965	9,909,703	9,541,824	9,785,615	9,845,832	60,217	100.6%
うち内国貿易	13,617,012	14,372,868	14,366,987	13,956,594	13,664,147	▲ 292,447	97.9%
移出	3,923,506	4,125,997	4,228,673	4,131,479	4,312,362	180,883	104.4%
移入	9,693,506	10,246,871	10,138,314	9,825,115	9,351,785	▲ 473,330	95.2%

【グラフ 3-1】



(2) 令和7年の貨物量増減の主な要因

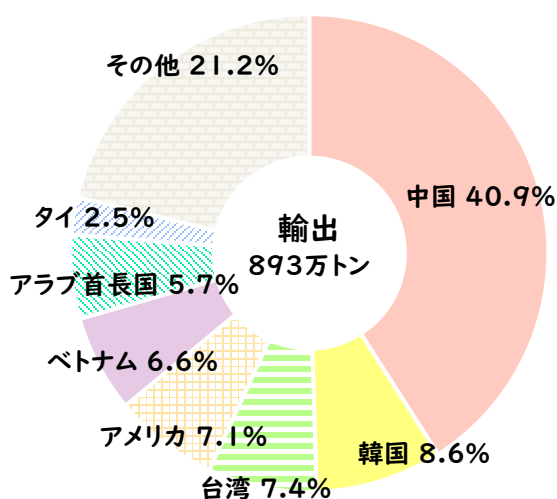
輸移出…二輪自動車(前年比+11.7万トン)や紙・パルプ(同+7.7万トン)の増加等
 輸移入…砂利・砂(同▲23.5万トン)や麦(同▲8.7万トン)の減少等

(3) 外国貿易 【1,878万トン】

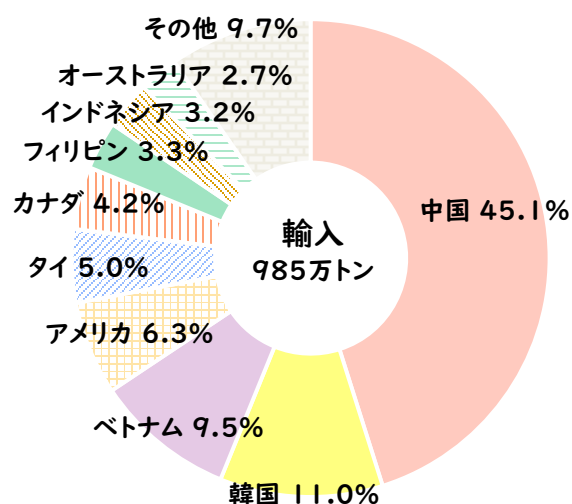
①相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



②主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品(タイヤ等)」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの(衣類関係)」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位:万トン)

輸 出					
順位	品 種	取扱量	主な輸出相手国		
1	完成自動車	※ 425.5	中国	アラブ首長国	韓国
2	ゴム製品	90.5	アメリカ	アラブ首長国	サウジアラビア
3	産業機械	45.2	台湾	ベトナム	中国
4	再利用資材	37.5	ベトナム	台湾	韓国
5	自動車部品	34.8	アラブ首長国	マレーシア	アメリカ
6	二輪自動車	32.8	イタリア	アメリカ	フランス
7	飲料	29.0	韓国	台湾	中国
8	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	28.4	中国	台湾	韓国
9	取合せ品	23.2	韓国	中国	アメリカ
10	金属くず	18.9	ベトナム	中国	韓国

※ 普通・小型乗用車約 426,000 台分に相当

【表 3-3】

(単位:万トン)

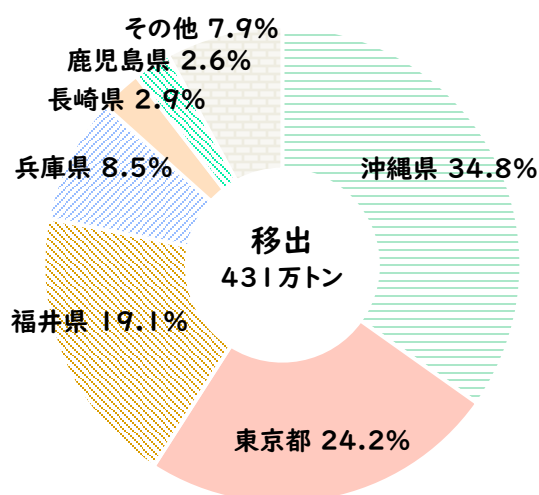
輸 入					
順位	品 種	取扱量	主な輸入相手国		
1	家具装備品	128.0	中国	ベトナム	マレーシア
2	衣服・身廻品・はきもの	73.9	中国	ベトナム	タイ
3	電気機械	68.1	中国	タイ	ベトナム
4	野菜・果物	58.5	フィリピン	中国	韓国
5	動植物性製造飼肥料	58.3	韓国	アメリカ	オーストラリア
6	自動車部品	54.6	ベトナム	中国	タイ
7	製造食品	52.5	中国	タイ	韓国
8	麦	42.4	カナダ	アメリカ	オーストラリア
9	その他日用品	40.5	中国	韓国	インドネシア
10	染料・塗料・合成樹脂・ その他化学工業品	33.0	中国	韓国	台湾

(4) 内国貿易 【1,366万トン】

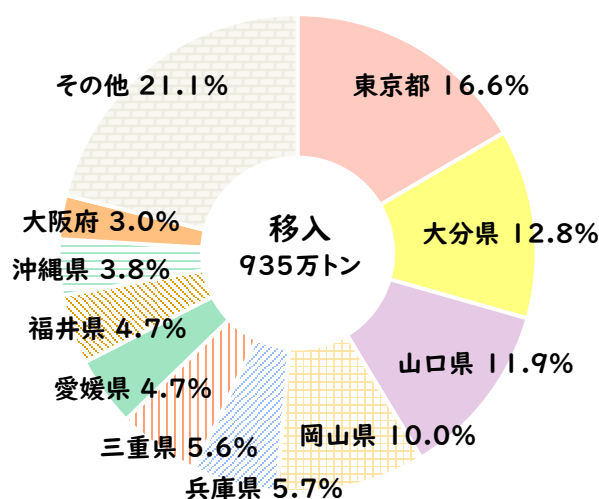
①相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する沖縄県や東京都との取引が多く、また、移入においては、定期航路を有する東京都のほか、大分県、山口県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



②主要取扱品種

移出では、「取合せ品（小口混載貨物等）」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「その他の石油（軽油、航空燃料油など）」や「揮発油（ガソリンなど）」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-4】

(単位:万トン)

移 出				
順位	品 種	取扱量	主な移出相手都道府県	
1	その他輸送機械	105.7	福井県	東京都 兵庫県
2	取合せ品	64.3	沖縄県	東京都 兵庫県
3	完成自動車	※1 61.6	東京都	沖縄県 福井県
4	製造食品	22.1	沖縄県	兵庫県 長崎県
5	鋼材	17.4	沖縄県	兵庫県 福井県
6	その他日用品	17.0	沖縄県	長崎県 福井県
7	飲料	14.7	沖縄県	長崎県 兵庫県
8	水	13.3	海上採取	長崎県 東京都
9	紙・パルプ	10.8	東京都	沖縄県 福井県
10	麦	10.3	香川県	広島県 千葉県

※1 普通・小型乗用車約 62,000 台分に相当

【表 3-5】

(単位:万トン)

移 入				
順位	品 種	取扱量	主な移入相手都道府県	
1	その他の石油	176.9	大分県	岡山県 愛媛県
2	揮発油	146.7	岡山県	大分県 山口県
3	砂利・砂	139.6	海上採取	大分県 長崎県
4	完成自動車	※2 131.5	東京都	三重県 沖縄県
5	セメント	47.6	山口県	福岡県 福井県
6	取合せ品	37.3	東京都	沖縄県 福井県
7	鋼材	29.9	岡山県	兵庫県 大阪府
8	その他農産品	23.3	東京都	福井県 兵庫県
9	米	20.8	東京都	兵庫県 福井県
10	動植物性製造肥料	19.9	兵庫県	福井県 鹿児島県

※2 普通・小型乗用車約 132,000 台分に相当

博多港のコンテナ物流について

<令和7年の国際海上コンテナ貨物動向> 【令和7年港湾統計速報値】

◆国際海上コンテナ取扱個数

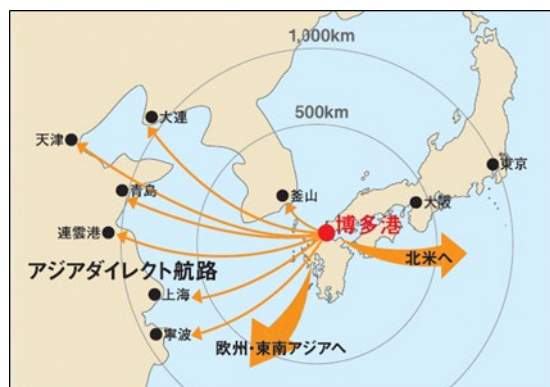
(単位:TEU)

区分	令和6年	令和7年	増減数	増減率
博多港全体	877,382	906,665	+29,283	+3.3%
実入り	637,962	653,305	+15,343	+2.4%
空	239,420	253,360	+13,940	+5.8%
輸移出	432,682	450,007	+17,326	+4.0%
実入り	244,048	253,873	+9,825	+4.0%
空	188,634	196,134	+7,500	+4.0%
輸移入	444,700	456,658	+11,957	+2.7%
実入り	393,914	399,432	+5,517	+1.4%
空	50,786	57,226	+6,440	+12.7%

◆博多港の集荷対策について

■目指すべき姿

活力と存在感に満ちた「日本の対アジア拠点港」 ※平成28年3月改訂 博多港港湾計画



成長著しいアジアに近い**地理的優位性**



陸・海・空の輸送モードが集積する**交通便利性**

■取組みの方向性

博多港の強みを活かし、博多港における国際海上コンテナ取扱量のシェアが高い「東アジア」の貨物や、近年、増加が顕著な「東南アジア」の貨物を中心に集荷活動に取り組む。アジアの貨物については、九州内の港で輸出入されている貨物だけでなく、更なる集荷のため、九州からの流出貨物や、九州域外の貨物についても対象を広げ、積極的に集荷活動に取り組む。

第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員

【令和7年港湾統計速報値】

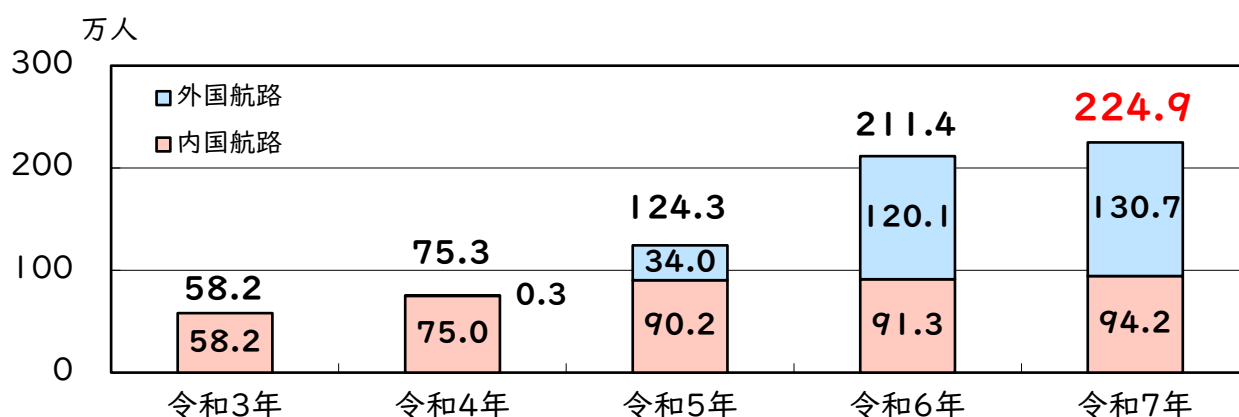
乗降人員：約224万9千人

外国航路：約130万7千人、内国航路：約94万2千人

(1) 船舶乗降人員の推移

令和7年の乗降人員数は、外国航路・内国航路ともに増加している。

【グラフ1-1】

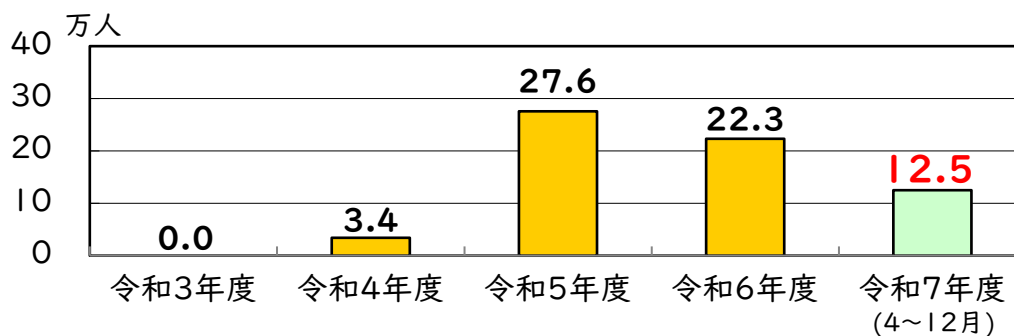


外国航路船舶のうち定期航路（韓国航路）の旅客数について

◆日韓旅客定期航路の旅客輸送実績

日韓旅客定期航路の旅客については、令和4年11月の運航再開以降は順調に推移していたものの、一部運休・廃止の影響が見られる。

【グラフ1-2】



※令和3~6年度は、九州運輸局ホームページ公表資料から抜粋。

※令和7年度は、カメラライン株式会社からの聞き取りによる。

2. クルーズ船の寄港状況

【令和7年港湾統計速報値】

寄港回数：209回

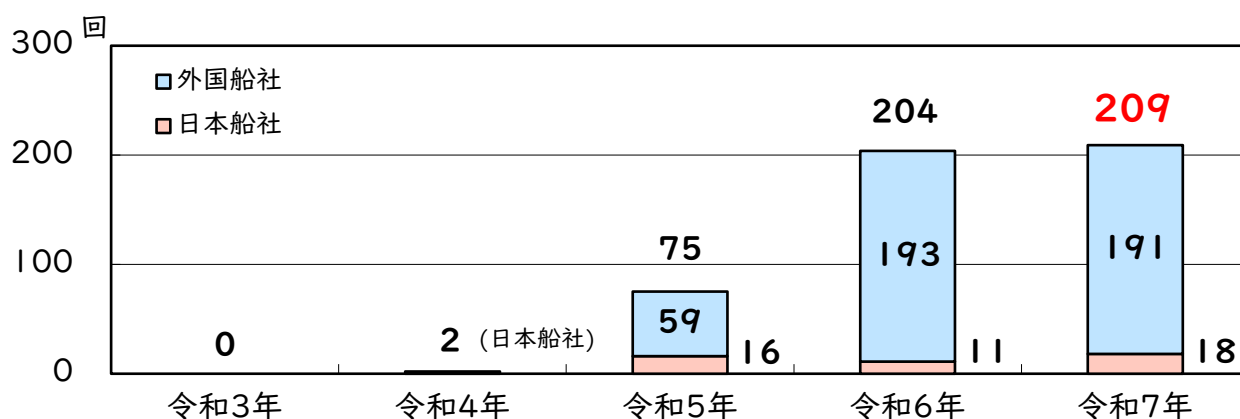
乗降人員：約113万4千人

外国船社：191回・約111万9千人、日本船社：18回・約1万5千人

(1) 寄港回数の推移

日本船社の寄港回数増もあり、全体として増加している。

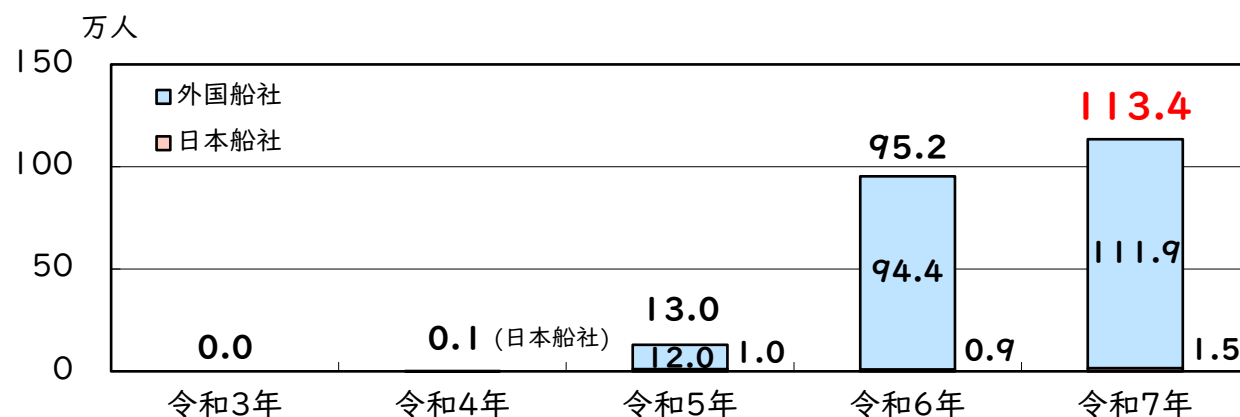
【グラフ2-1】



(2) 船舶乗降人員の推移

日本船社・外国船社ともに乗降人員は増加している。

【グラフ2-2】



第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数

【令和7年港湾統計速報値】

入港隻数：24,347 隻

総トン数：約 7,258 万総トン

外国航路：2,785 隻・約 5,293 万総トン、内国航路：21,562 隻・約 1,965 万総トン

(1) 入港隻数及び総トン数の推移

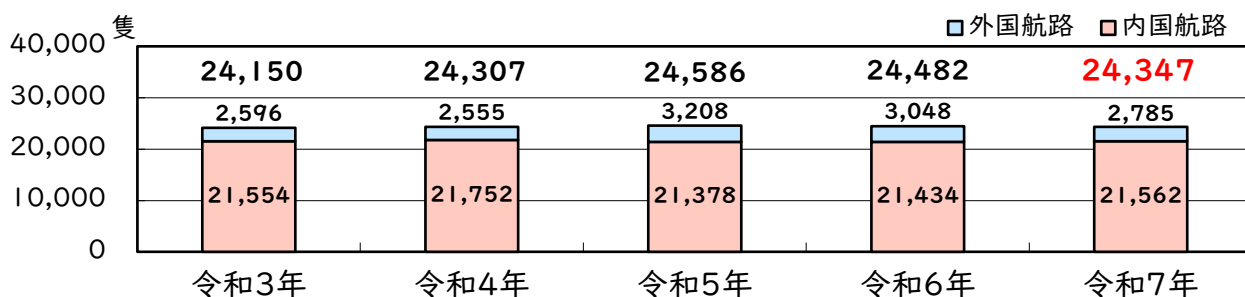
入港隻数は近年2万4千隻前後で推移している。令和7年は、客船やフルコンテナ船等の減少により、入港隻数、総トン数ともに減少している。

【表1】

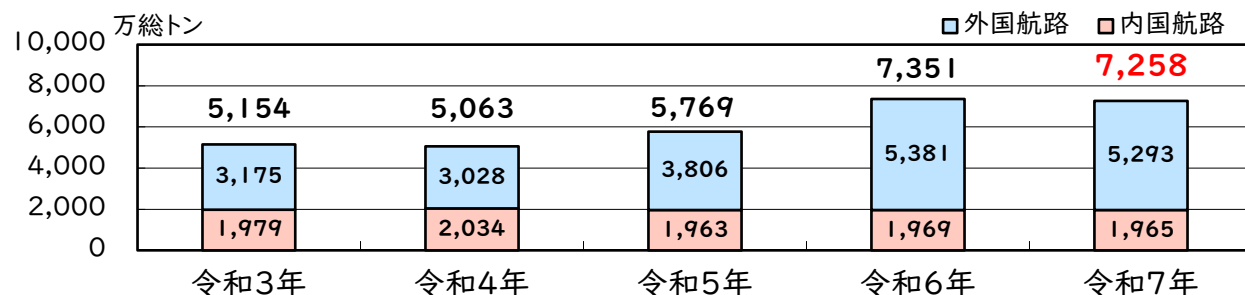
(単位:隻、総トン)

区 分	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	増減(R7/R6)	
					数量	数量	前年比
入港隻数	24,150	24,307	24,586	24,482	24,347	▲ 135	99.4%
うち外国航路	2,596	2,555	3,208	3,048	2,785	▲ 263	91.4%
うち内国航路	21,554	21,752	21,378	21,434	21,562	128	100.6%
総トン数	51,540,787	50,627,385	57,693,783	73,505,454	72,575,833	▲ 929,621	98.7%
うち外国航路	31,750,203	30,284,868	38,059,362	53,812,572	52,925,242	▲ 887,330	98.4%
うち内国航路	19,790,584	20,342,517	19,634,421	19,692,882	19,650,591	▲ 42,291	99.8%

【グラフ1-1 入港隻数】



【グラフ1-2 総トン数】



市営渡船の経営状況

1. 航路概要図



主な使用船舶



2. 航路別収支

（単位：千円）

区分		令和8年度 当初予算(案)				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	90,489	275,873	56,313	24,109	446,784
	国・県補助金	0	0	120,933	113,340	234,273
	計	90,489	275,873	177,246	137,449	681,057
	運航経費	486,694	471,785	293,200	178,102	1,429,781
	運航収支	▲ 396,205	▲ 195,912	▲ 115,954	▲ 40,653	▲ 748,724
歳入	市債収入	700,000	371,000	3,000	110,000	1,184,000
歳出	市債関連支出	704,580	371,523	3,943	153,475	1,233,521
	公債費(市債償還分)等	40,550	44,715	41,488	2,583	129,336
	計	745,130	416,238	45,431	156,058	1,362,857
	繰入金	441,335	241,150	158,385	86,711	927,581

3. 渡船の利用状況の推移

（単位：人）

区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
乗客人員	志賀島航路	186,931	107,738	118,422	149,569	176,988	184,380
	能古航路	838,255	586,078	601,453	657,822	699,162	670,697
	玄界島航路	71,083	53,227	52,112	60,396	64,265	60,615
	小呂島航路	9,376	7,691	7,277	8,159	8,573	8,057
	合計	1,105,645	754,734	779,264	875,946	948,988	923,749
	対前年度比	100.1%	68.3%	103.3%	112.4%	108.3%	97.3%

第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数

【令和6年度確定値】

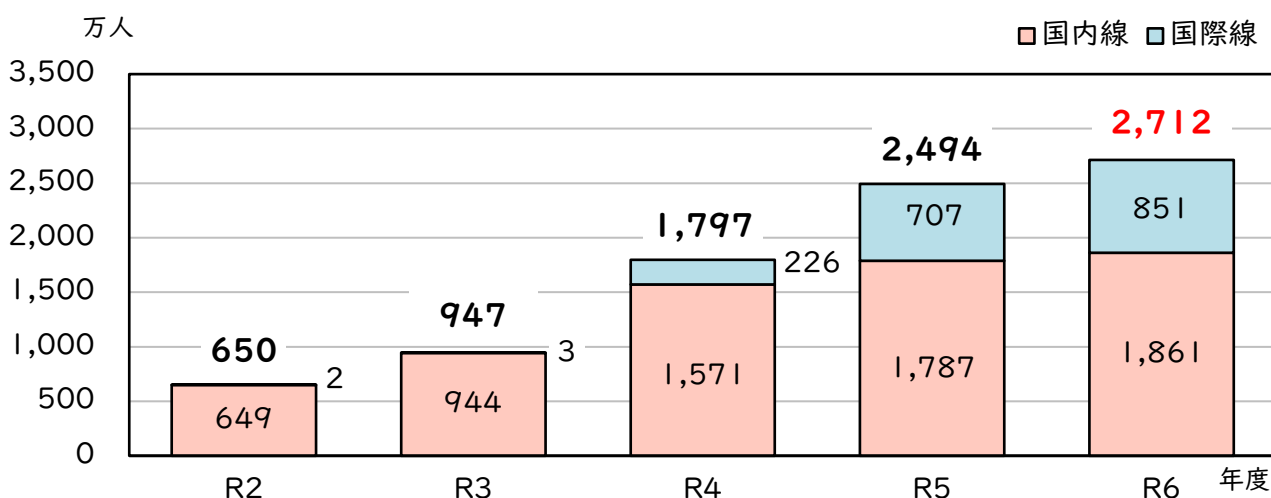
乗降客数：約 2,712 万人

国際線：約 851 万人、国内線：約 1,861 万人

(1) 乗降客数の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

乗降客数は過去最高を更新した。

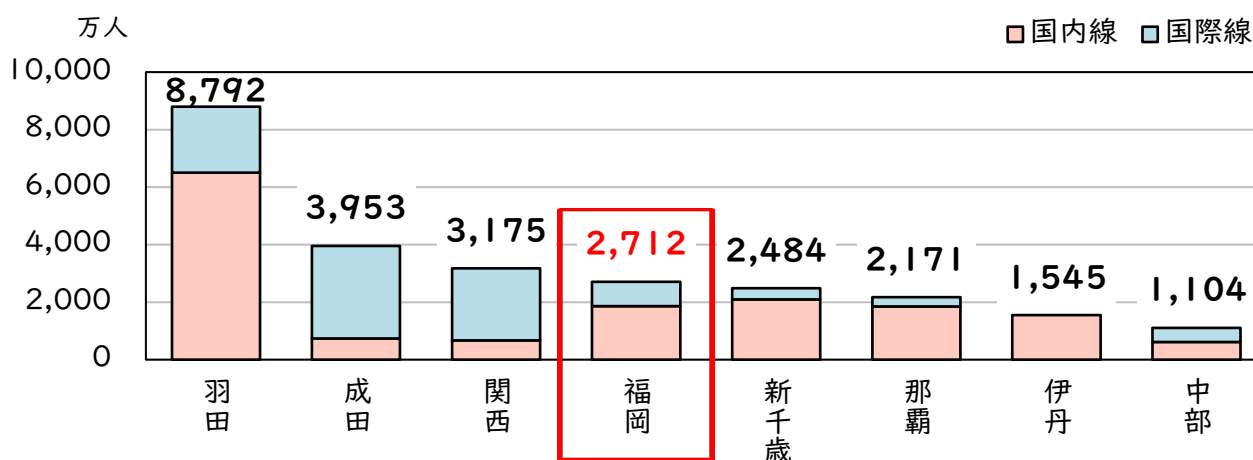
【グラフ1-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の乗降客数は国内第4位である。

【グラフ1-2】



2. 貨物取扱量

【令和6年度確定値】

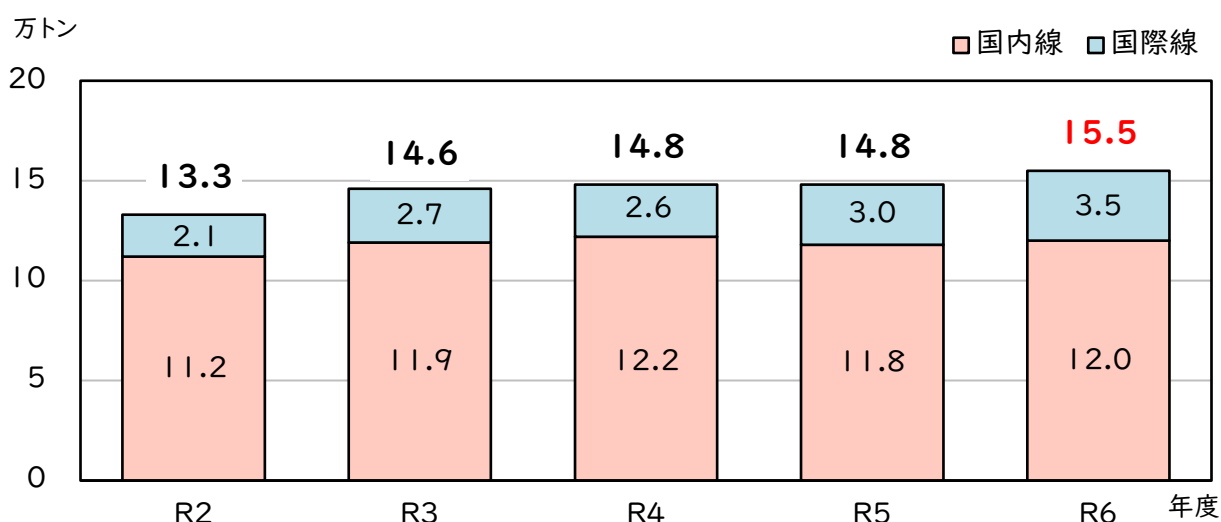
貨物取扱量：約15万5千トン

国際線：約3万5千トン、国内線：約12万トン

(1) 貨物取扱量の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

国際線・国内線ともに前年度と同程度となっている。

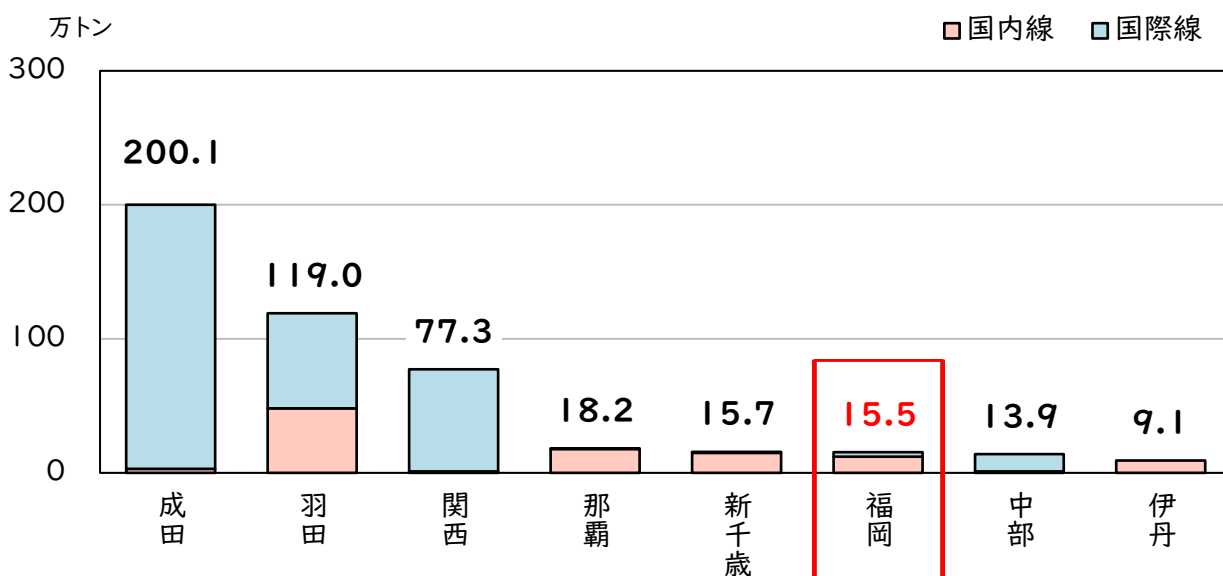
【グラフ2-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の貨物取扱量は国内第6位である。

【グラフ2-2】



3. 発着回数

【令和6年度確定値】

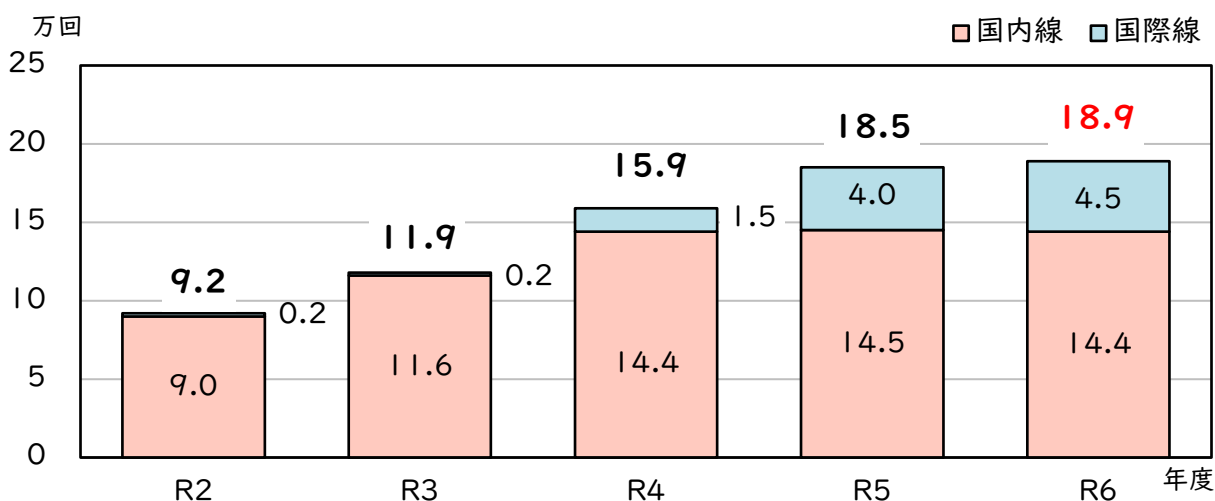
発着回数：約18万9千回

国際線：約4万5千回、国内線：約14万4千回

(1) 発着回数の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

発着回数は過去最高を更新した。

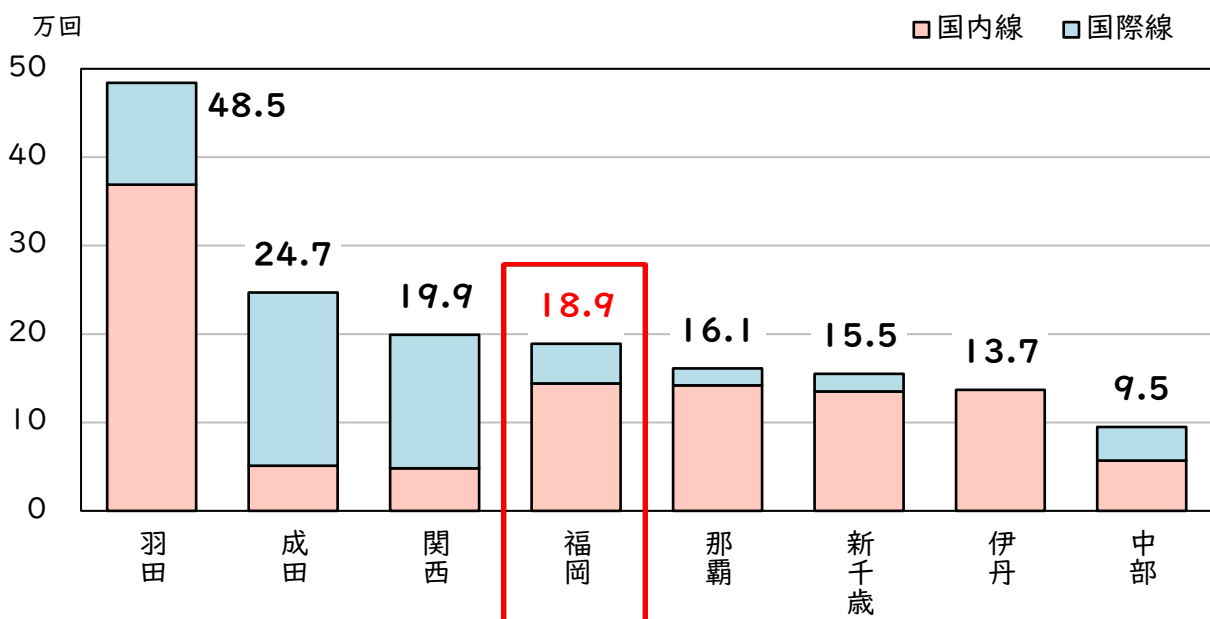
【グラフ3-1】



【参考：国内主要空港との比較（令和6年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の発着回数は国内第4位である。

【グラフ3-2】



4. 路線状況

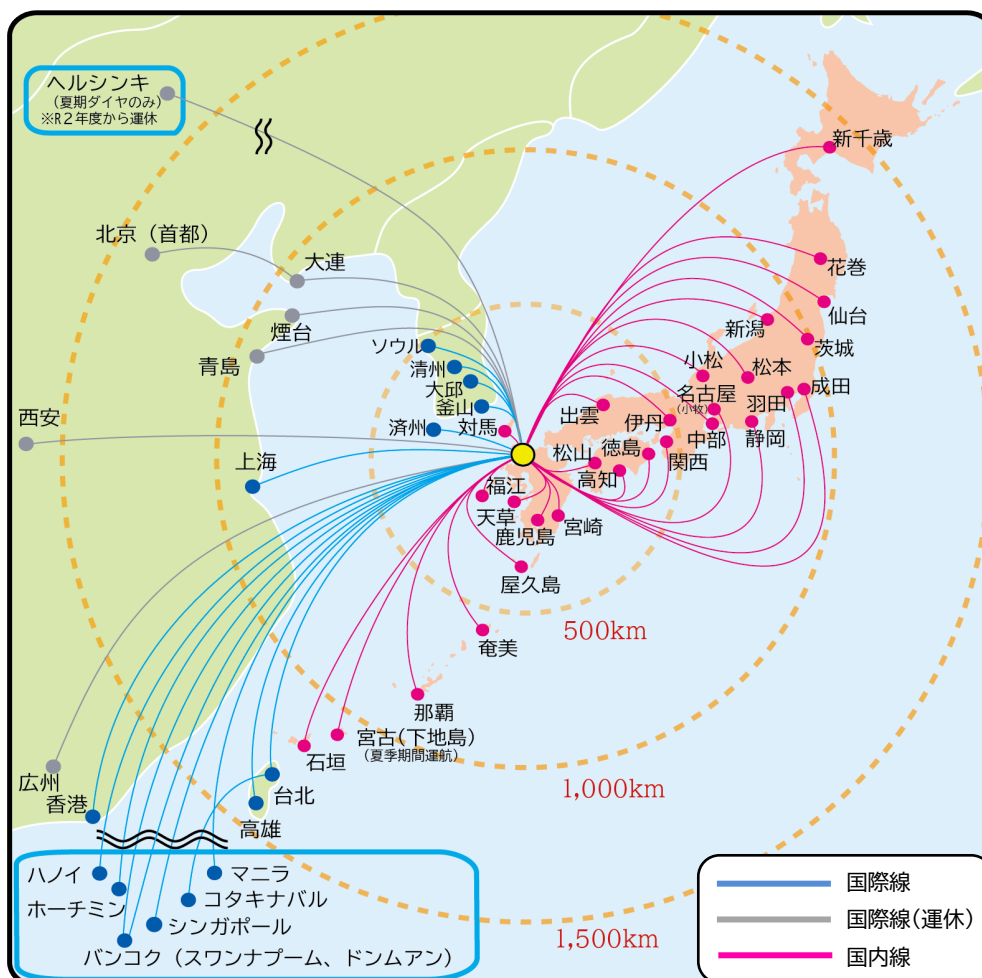
令和8年2月現在で、路線数は国際線が22路線、国内線が27路線となっている。
また、発着便数は国際線が週926便、国内線が1日384便となっている。

福岡空港の時刻表(2月)を基に福岡市港湾空港局集計

区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行先
国際線	22 ※運休含む	926 (便/週)	32	プサン テグ チョンジュ チェジュ シャンハイ ペキン ダイレン ソウル、釜山、大邱、清州、済州、上海、 <u>北京</u> 、 <u>大連</u> 、 チンタオ イェンタイ コウシュウ セイアン ホンコン タイペイ カオシュン <u>青島</u> 、 <u>煙台</u> 、 <u>広州</u> 、 <u>西安</u> 、香港、台北、高雄、マニラ、 バンコク、ハノイ、ホーチミン、シンガポール、 コタキナバル ※下線部は時刻表上「運休」 計 21 都市 (8カ国・地域)
国内線	27	384 (便/日)	13	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、小松、松本、 茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、関西、伊丹、出雲、 松山、徳島、高知、対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、 屋久島、奄美、那覇、石垣 計 27 空港

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く。

福岡空港路線図



福岡空港の機能強化



航空写真：国土交通省 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所

令和7年11月11日に、(一社)九州経済連合会を中心として、経済界・福岡県・福岡市、福岡国際空港㈱が参画する「福岡空港機能向上等検討委員会」が設立され、同委員会から国土交通省に対し、福岡空港の機能向上の早期実現に向けた技術的検討の実施を要請

福岡市・福岡国際空港(株)協議会の開催実績（令和7年9月以降）

福岡市は、福岡国際空港(株)との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場（福岡市・福岡国際空港(株)協議会）を設置

開催日・出席者	主な協議内容
<p>令和7年12月5日（協議会）</p> <p>【福岡市】</p> <p>市長、副市長、 港湾空港局長、理事 他</p> <p>【福岡国際空港(株)】</p> <p>社長、副社長、 経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会社から、令和7年度中間決算についての説明があり、旅客数の増加等により、当期純利益が初の黒字化となる見通しであるとの報告があった。また、増設滑走路の供用開始後、一本の滑走路が閉鎖されてももう一本の滑走路で離発着が可能となったため、航空機の安定的な運航に寄与しているとの報告を受けた。 ・また、欧米豪路線などの長距離路線の航空ネットワーク強化や、回復が遅れている日本人アウトバウンドの促進、高付加価値旅行者の誘致などについて、両者で連携して取り組むことを確認した。 ・運営会社から、11月に開催された福岡空港機能向上等検討委員会の報告があった。 福岡市から、発着枠拡大への期待とともに、空港の機能強化や将来予定されている騒音対策区域の見直しに伴い、より一層、安全・安心で地域に寄り添った空港運営を行うよう申し入れ、運営会社も地域共生事業の充実などに取り組んでいくことを確認した。 ・運営会社から、国際線ターミナル増改築工事および国内線ターミナル複合施設整備の進捗状況について説明を受けた。 福岡市から、施設整備の着実な実施と、複合施設の整備に伴い懸念される交通渋滞や駐車場不足への対策について申し入れた。また、バスやタクシーなどの乗降場等の整備にあたっては、交通事業者等と十分に協議し、利便性の一層の向上に努めるよう申し入れた。